

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援	
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	05	カナリヤの家費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療							
小事業	02	幼児療育支援事業（定住）		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	令和元年度、1市7町村の小学生のうち支援を必要とする児童（特別支援学校小学部在籍、小学校特別支援学級在籍、通級指導教室通級）は、全児童の約9％になる。その中で増加傾向にあるのが、支援を必要とする児童の5.3％を占める。通級指導教室に通う「発達障がい」又はその傾向のある児童である。また、通常学級に在籍している児童の中にも、集団生活に適応できず不登校になる児童や発達特性に気づかれないまま周りの大人から注意や指導を受けることで不適応行動を見せる児童がいる。支援を必要とする児童が健やかに成長する為、早期発見と早期支援の充実、一貫した支援体制の構築が必要となる。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 定住自立圏域の幼児療育に関わる関係職員 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） ・乳幼児期の早期発見と早期支援の充実、多種多様な障がいに対応できる療育支援 ・早期発見から繋がる一貫した支援体制の構築。 ・早期発見に関わる療育施設の役割強化と地域連携の充実。				
	事業概要	・各市町村の持つ資源やネットワークを活かしての研修や専門職等の派遣支援。 ・基礎知識と専門的技術の習得を図るための人材育成研修開催。 ・圏域の共通課題について学び合う合同研修の開催。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	720	720	760	670	836
	決算額	450	320	522	420	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	142 / 54				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	人材育成研修及び専門職支援の実施回数（回）	目標値 19	24	35	39	39
		実績値 19	18	31	29	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	受講内容が療育に活かした職員の割合（％） アンケート結果より	目標値 90	90	90	100	100
		実績値 100	100	100	100	



実 績	実績	取組 人材育成研修 ・若手人材育成研修（公開療育及び研究討議）：8回（1市7町村） ・責任者研修 3回/4回（コロナ感染の為1回休会） 取組 専門職支援（作業療法士・言語聴覚士・オプトメトリスト・相談支援専門員） ・1市7町村で18回実施 *作業療法士の都合により9回中止。
	効果	・若手人材育成研修：アンケート結果で「療育の質の向上につながった」100％、施設責任者の印象「研修参加後の療育アプローチが変化する。」 ・責任者研修：七条町担当課への各市町施設プレゼン実施。（行政へのアプローチ） ・専門職支援：子どもの目の異常について、全国的に問題になっている。今年度、七条町がオプトメトリストによる支援を受け、支援対象児の目の異常に気づいてもらうことができた。8市町村中6市町がビジョン検査の実施を行う等、視覚機能の発達や異常に意識を向けることができるようになった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	人材育成研修と専門職支援で39回開催企画 地域全体の療育の質の向上のため、公開療育と研究討議を1市7町村持ち回りで開催。また、療育情報の共有・職員育成へのアプローチを学ぶことを目的に、施設責任者研修を年間4回開催。専門職支援では、作業療法士・言語聴覚士・オプトメトリスト・相談支援専門員の派遣を、1市7町村で18回実施。 支援対象児の増加により、専門職支援へのニーズが年々増えていることから、今後、専門職支援の回数充実が必要となる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	受講内容が療育に活かした職員の割合（％） 100％ 1市7町村持ち回りで「公開療育と研究討議」を実施したことで、参加者は他市町村の療育アプローチを学ぶことができ、開催市町村は全職員で研究討議を重ねたことで施設全体の療育スキルを高めた。 専門職支援では、対象児が馴染みの環境で専門的支援を受けられたことで、パターン化した遊びが発展したり、保護者が遠方の病院等に出向がなくても専門的支援が受けられたりした。また、療育者にとっては施設を利用して専門的支援が受けられることで、学びをスムーズに療育に活かすことができた。 以上の事から、成果指標100％達成となったと考える。
	実績からR06年度の事業の方向性	・世界的に子どもの目の異常が問題視されている。現在6市町でオプトメトリストによるビジョン検査等を実施している。来年度、回数の増加によるオプトメトリスト派遣の充実を図りたい。また、近年の支援対象児増加により、専門職のニーズが高まっている。人材確保が難しい状況になっていることから、安定的な確保の方策を考えていく。 ・公設の療育施設と民間療育施設を並行利用する保護者が増えてきていることから、責任者研修のメンバーで民間療育施設との連携の基盤づくりとして見学会を実施する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援	
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	05	カナリヤの家費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療							
小事業	03	カナリヤの家管理運営事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	<p>発達の遅れがみられる児童等には適切なサポートが必要である。 保健センターが実施する乳幼児健診にて要支援対象児が増加しており、就学児健診においても支援対象児増加している現状がある。 また、子どもの育て難さからくる保護者の精神的不安も問題となっている。 令和５年度就学児支援より 新一年生５３４人中、支援が必要とされた児１０２名 １９％</p>				
	事業目的	<p>(１)対象 ・障がい児及び発達に遅れや特性がみられる乳幼児 ・福祉サービスの利用対象児であり計画相談を希望する０歳～小学６年生</p> <p>(２)目的 ・運動発達やことばの発達、社会性等、乳幼児の健やかな発達を促す。 ・支援を必要とする０歳～小学６年生の子どもを持つ保護者が安心して子育てができるよう相談を行う。</p>				
	事業概要	<p>相談支援事業...「児童福祉法」及び「障害者総合支援法」に基づく障害福祉サービス（児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービス等）支援を必要とする子どもを持つ保護者に対し計画相談を行う。 児童発達支援事業...運動発達やことばの発達、社会性等の発達等の発達を促すため、個別支援療育、集団支援療育、親子支援、食事指導を行う。 保育所等訪問支援...支援対象児が集団生活を営む場に訪問し、対象児に対する支援及び施設スタッフに対する相談支援を行う。 地域支援...関係機関へのアウトリーチ相談を行う。</p>				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,559	4,431	5,478	4,953	18,600
	決算額	3,821	3,926	4,873	4,926	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	14,105 / 14,352				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	カナリヤの家への通所日数（％） 通所実績日数／通所可能日数	目標値		80	80	80
		実績値		83	81	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	利用者の満足度（アンケート結果）	目標値		80	90	90
		実績値		90	95	



実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> 通所児童数 79名 一般相談件数 581件 計画相談児童数 児童発達支援 119名 放課後児童デイ 78名 療育内容（SST・感覚統合・遊戯療法など） 家族支援（親の会運営・保護者勉強会開催など） 地域支援 幼保こども園（公開保育・講師等）61日 教育委員会（就学判定等）21日 教育との協働事業 あじさい相談 117件 巡回相談 190件
	効果	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援の効果についてのデータはないので、分からない。 しかし、カナリヤの家に通所していた児が就学時に支援判定となり通級教室等で支援を受けるが、学年が上がるにつれて通常学級に適応していく児が何名かいることや、反対に乳児期に支援を受けずに就学した児が、学年が上がると通級や支援学級等で支援を受けることになる様子を確認すると、乳児期の発達支援は就学後の集団適応や学びの姿勢に効果があると思われる。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	・コロナの感染やインフルエンザの感染等、子どもの体調が理由でお休みとなるが、保護者の健康管理等で81％の通所実績となった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	・保護者へのアンケートの結果、子どもの発達が促されたと回答をした保護者が95％いた。職員の研修受講等での療育スキルが高まったことが理由だと考えられる。
	実績からR06年度の 事業の方向性	・対象児の発達支援だけでなく、保護者支援及び保育園等への支援を充実させ、対象児の環境をより良いものにしていく。 （公開療育・講師派遣等）

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	03	児童保育費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%	
小事業	05	児童保育対策事業		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	疾病の回復期であり、保育所等における集団保育が困難である児童をみるために 保護者が仕事を休まなければならない。 保護者の子育て及び就労の両立を支援するための支援が必要。					
事業目的	(1)対象 病児保育...生後2カ月から小学6年生までの児童 保育研究協議会...市内公立、私立の全保育園の保育士 (2)目的 病児保育...病院(中部国際医療センター・太田病院)において病気の児童の保育を 行い、安心して子育てができる環境を整備し、児童福祉の向上を図る。 保育研究協議会...各種研修会を開催し保育の質の向上に努め、いずれの事業も子育 て世代が安心して生活できるまちづくりを図る。					
事業概要	病児保育事業 保護者の子育て及び就労の両立を支援するとともに児童の健全な育成及び資質の 向上に寄与するため、疾病の回復期であり、保育所等における集団保育が困難であ る児童を保育する事業(定員は7人/日(2箇所合計))。 保育研究協議会補助 保育研究協議会へ補助金を交付する。協議会は、市内全保育園の保育士を対象に 、全体及び各部会別研修会等を開催し、保育の向上に努めている。					
事業費(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	12,448	12,298	21,713	16,164	16,174
	決算額	10,266	10,896	20,048	13,343	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		202 / 449				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	病児保育事業の周知回数（回）	目標値			3	4
	実績値				4	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	病児保育の利用登録者数	目標値			180	180
	実績値				150	



実
績

実 績	病児保育利用者実績 プーさんの部屋（中部国際医療センター）28人 たんぼぼ（太田病院）122人 合計 150人 市のホームページ、インスタ、子育てガイド、入園児童 ての手紙配布で、事業を周知。
効 果	病気の児童の保育を行い、安心して預ける環境を整備することで、保護者の 子育てと就労の両立が可能になる。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ホームページ、SNS、入園児への手紙配布の他、健康課の健診時にも周知をした。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	利用する際、前日受診が必要であったり、急な利用がしづらい現状があるため、登録者数が伸びなかった。
実績からR06年度の 事業の方向性	新たに公式LINEの子育てメニュー一覧に「病児保育」を追加し、必要な支援情報へのアクセス機会を増やす。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	07	子育て支援事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感が増大している。子育て不安の軽減を図る取り組みが必要。				
	事業目的	<p>（１）対象 子育て中の保護者、子育て支援に興味関心がある市民、これから父親母親になる中学生</p> <p>（２）目的 子育てに関する情報提供（子育てハンドブックなど）、親子の絆作りプログラム（ベビープログラム1,2）の実施、ノーバディズパーフェクトプログラムの実施、子育てサロンの開設、命のバトンふれあい教室の開催、子育て講演会の開催など、子育て不安の軽減子育ての楽しさ、地域に根ざした子育て支援を行うことにより、安心して子どもを生み育てることができるようにすることを目指す。</p>				
	事業概要	<p>在宅で子育てをする母親の子育ての悩みや孤独感を軽減し楽しく子育てができるように、交流の場や学び場を作ったり、自分なりの子育ての方法をみつける手助けをする。</p> <p>命のバトンでは、中学3年生を対象に実施し、将来、安心して子育てができるように伝えていく。</p> <p>また、保育補助や学童保育の支援員などで働く意欲を高めたり、ボランティア等への参加を促すことで、地域で活躍できる人材を掘り起こす。</p>				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	13,139	12,728	21,752	28,173	22,469
	決算額	10,281	10,785	20,718	26,780	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,572 / 4,216				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	子育て関係事業の周知回数（回）	目標値				3	4
		実績値				4	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	子育て関係事業の参加者数	目標値				12500	17200
		実績値				17045	



実 績	実績	利用者数実績 サンサン12,556人 すくすく30人 にこにこ0人 山之上サロン527人 ベビープログラム1 87人 ベビープログラム2 38人 ノーバディズパーフェクト30人 命のバトン 998人 一時預かり事業2,779人 ホームページ、LINE、にじいろ面談、インスタ、健診、相談時にて事業を周知。
	効果	地域に根ざした子育て支援を行うことにより、安心して子育てをすることができ、各事業の参加者アンケートには、「悩みを共有できたことで心のゆとりと安心につながった。」、「心が軽くなり、子育てを楽しもうという気持ちになった。」、「家庭で楽しめない遊びを親子で体験できた。」など、事業目的にマッチした感想が寄せられている。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ライン、検診、相談時の周知のほか、インスタで活動内容を伝えていくことができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	健診相談事業で、子育て支援施設や事業の利用を直接促したり、ロゴフォームで参加申し込みを始めたことが、利用増につながった。 実績に応じて、R6年度以降の目標値を見直した。
	実績からR06年度の 事業の方向性	引き続き、BP1の参加者を増やし子育て不安の軽減を図る。また、新生児期から、様々な市の事業に誘い、行政とのつながりが切れないようにする。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%	
小事業	08	地域子育て支援拠点施設運営事業		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化の中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感が増大してる。				
	事業目的	(1) 対象 子育て中の保護者とその子ども (2) 目的 子育て支援拠点（ほたるの広場、にじいろ広場）での各種イベントや体験教室などに参加することにより、子育てに悩む保護者の相談を通じて子育てを応援し、安心して楽しく子育てができるようにする。				
	事業概要	子育て相談、子育てサークル活動等を通じて、地域における子育て支援の中心となる子育て支援のための拠点施設を設置することにより、地域における子育てしやすい環境の整備の促進を図る。 ・乳児又は幼児及びその保護者の相互の交流の促進に関する事業 ・子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助に関する事業 ・子育てサークル及び地域における親子の育ちを支援する団体（子育てサークル）並びに子育てボランティアの育成及び支援に関する事業 ・地域（三和）住民とのふれあいを通じて、地域みんなで子育てをする事業				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	1,818 998	11,534 10,306	3,347 2,736	2,674 2,069	3,223
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		403 / 9,269				

実 績	実績	・にじいろ広場 15,517人 ことばの相談24回 リズム遊び12回 おはなし広場12回 制作遊び24回 パパと遊ぼう3回 赤ちゃん体操24回 夏祭り1回 クリスマス会1回 乳幼児学級お楽しみ会1回 保育園説明会1回 ・ほたるの広場 3,968人 制作遊び24回 離乳食教室20回 食育教室5回 親子遊び33回 季節の遊び24回 ママ講座48回 キッズフォト・親子体操13回 赤ちゃん体操45回 乳幼児学級(多胎児教室)11回 あじさい子育て広場41回
	効果	子育て支援拠点（ほたるの広場、にじいろ広場）での親子遊び、イベントなどに参加することにより、育てを応援し、安心して楽しく子育てができるようになる。また、子育てに悩む保護者の相談を引き出すことで、関係機関につなげ、必要な支援につながる。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	子育て支援拠点の周知回数（回）	目標値			3	4
アウト カ ム		実績値			4	
	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	子育て支援拠点の参加者数	目標値			17500	20000
		実績値			19485	

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ホームページやSNSのほか、インスタで活動内容を知らせることができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	職員の日常の関わりから利用者との信頼関係を築き、安心して遊びに来れる場所になった。親子で触れ合えるイベントを毎月計画することで、利用者人数が増えている。実績に応じて、R6年度以降の目標値を見直した。
	実績からR06年度の事業の方向性	ほたるの広場は、身近な自然を生かした活動を多く計画する。離乳食教室をほたるの広場で行うことにより、ほたるの広場をさらに周知していく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	10	ファミリー・サポート・センター事業（定住）		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	・保護者のリフレッシュや保育園や幼稚園では対応できない多様な支援ニーズに対して、ファミリー・サポート・センターを利用することにより保育園の送り迎えや、休日に子どもを預かるなど、多様な支援ニーズに応え、地域における育児の相互援助活動の推進により仕事と育児を両立できる環境を整える。 ・サポートを行う者にとっても、社会との関わりが続くことにより、生き甲斐を感じながら、子育てを支える社会づくりの役割を担う。 ・子育てを手伝ってほしい人（利用会員）と子育ての手伝いをしたい人（サポート会員）の調整が難しい時があるので、各市町のサポート会員の増加が必要。また、サポート会員の安全を守るため、保険等の対応が課題。				
	事業目的	（１）対象 子育て中の母親とその子ども（利用会員）、子育ての手伝いをしたい人たち（サポート会員） （２）目的 ・地域における育児の相互援助活動の推進により仕事と育児を両立し、安心して働くことができる環境を整えることで、保護者の負担軽減ができ、安心して楽しく子育てができる。 ・利用会員・サポート会員共に社会との関わりを持ち続けることにより、生き甲斐を感じ、地域の子育てを支える一員として元気に暮らすことができる。				
	事業概要	・子育てを手伝って欲しい人（利用会員）と、子育ての手伝いをしたい人（サポート会員）が、会員となって地域でお互いに助け合いながら子育てを応援する事業。 ・ファミリー・サポート・センターの運営を委託することにより、常に連絡が取れる体制が出来、利用会員とサポート会員のより良い調整や交流会などができる。 ・会員や子育てに関心のある人、子育て中の人を対象に、子育て支援研修を実施し、子育てについて学ぶ機会を作る。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	9,376	9,376	9,376	9,128	9,501
決算額		8,556	8,869	8,804	8,418	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		403 / 179				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	サポート会員の登録者数（人）	目標値		100	103	120	130
		実績値		95	118	118	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	ファミサポ利用者数 （CaminhoのKPI）	目標値	780	800	830	900	920
		実績値	641	1532	901	1366	



実 績	実績	・登録会員 1,151人 （利用会員1,006人、サポート会員118人、両方会員27人） ・乳児検診時にて事業を紹介し、無料券を配布 ・転入手続き時に窓口で紹介。 ・24時間の子育て支援講座を実施（ホームページ、広報にて周知）
	効果	・利用登録者数が増加した。 ・保護者が仕事と育児を両立し、安心して働くことができる環境作りの子育てのサポートができた。 ・利用会員とサポート会員の相互が助け合うことで、子育てのネットワーク作りにつながった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	・サポート会員数は、R4年度と同じ118人。うち新規登録者数2人。 ・子育て支援24時間講座の開催によりサポートの質の向上につながっている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	・前年と比べ、保育園等の迎え・及び帰宅後の預かり、習い事等の援助、保護者の外出時の援助が増加している。 また、困難家庭に関わる援助についても増加がみられる。 保育園等の迎え帰宅後の預かり R4： 55件 R5： 217件 習い事等の援助 R4： 84件 R5： 208件 保護者の外出時の援助 R4： 99件 R5： 189件 困難家庭に関する援助 R4： 283件 R5： 391件 ・本事業に対する国の交付金及び県補助金の基準額が利用者数1,000人を境に増額となるため、令和7年度から成果指標を1,000人に変更する。
	実績からR06年度の 事業の方向性	・保護者の負担軽減と利用会員とサポート会員の子育てのネットワーク作りのため、会員研修を実施し、サポートの質の向上や会員相互の交流を継続して行う。 ・各市町でサポート会員を増やし、相互に利用できる範囲が広がるよう働きかける。 ・子育て中の保護者へ事業周知をし、事業の実績向上につなげる。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17300000	健康こども 子育て支援		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	01	児童福祉総務費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%	
小事業	13	乳幼児期親子支援事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化の中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感が増大している。
	事業目的	（１）対象 乳幼児期（０歳～未就園児）の子どもと保護者 （２）目的 地区や子どもの年齢などを基にした学級により、参加者自らが計画を立て子育てに関する学習や研修などを進めることで、地域で同じ世代の子どもを育てる保護者のつながりを深め、仲間と一緒に親子で成長していくことができる礎を構築する。 また、乳幼児期家庭教育学級終了後も子育てへの興味関心を持ち続け、地域活動などに積極的に参加できる市民を育む。
	事業概要	「From-0歳プラン」のスタートである、乳幼児期の子どもを育てる親を対象とした教育プログラムを展開します。 乳幼児期家庭教育学級乳幼児（０歳～３歳）を対象とした親子で子育てを学ぶための学級を各地区において開級する。
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	785 785 785 785 785
	決算額	225 326 240 286
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	302 / 3,838

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02 R03 R04 R05 R06
	乳幼児期家庭教育学級の周知回数（回）	目標値 5 5 5 5 6
	実績値	5 5 5 6

アウト カ ム	K P I（単位）	R02 R03 R04 R05 R06
	新生児期家庭教育学級への参加率	目標値 44 46 48 48 48
	実績値	20.5 27 17.5 20



実
績

実 績	乳幼児期家庭教育学級への親子延べ参加数 2,751人 15学級 児童数 186人 新生児期（0.1歳）参加人数 77人 ホームページ、郵送、LINE、インスタで事業周知
効 果	・子どもが生まれてから保育園等に入園するまでの間、親が地域の仲間と一緒に子育てなどを学ぶことにより、仲間と一緒に親として成長する。 また、学級を通じて地域の仲間とのつながりをもつことによって、子育て初期の親の孤独感を減らす効果も期待できる。 ・乳幼児期家庭教育学級を終了した後も子育てへの興味関心を持ち続け、地域活動などに積極的に参加できる市民をはくぐむ。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	個別郵送、SNSのほか、健康課の事業に合わせて事業を紹介することができた。 KPIの変更をするため、「乳幼児学級参加者の出席率（％）」にR6年度以降指標を変更する。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	・新生児期の保育園の入園率が上がってきていることにより、参加人数が増えない。 ・外国籍の参加者が少ない。 より事業目的に沿った指標とするため、「乳幼児学級参加者の翌年度継続率（％）」にR6年度以降変更する。
実績からR06年度の事業の方向性	1歳児の入園率が上がっているが、0歳児は家庭で過ごしている割合が多いため、新たに「にじいろ面談」の機会を利用して、乳幼児学級のPRを図り、0歳児の入級をさらに周知していく。